

## 自己評価報告書

平成23年 5月 6日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520695

研究課題名(和文) 17～19世紀におけるロシア帝国のシベリア・極東の地域像

研究課題名(英文) Regional image in Siberia and the Far East of Russian Empire of 17-19 century

研究代表者

米家 志乃布 (KOMEIE SHINOBU)

法政大学・文学部・教授

研究者番号：30272735

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：絵図、地図

## 1. 研究計画の概要

本研究では、17～19世紀にロシア帝国が作製した主要なシベリア図およびシベリア地図帳(アトラス類)などを取り上げ、その作製目的や意義、ロシア地図史上の位置づけを明らかにする。そこで、ロシア各地に所蔵されている貴重な古地図やアトラス類を閲覧し、先行研究を読みこみながら、それらの意義について考察する。平成20～22年度は、主にロシアの国立図書館や学術図書館などでの現地調査と文献収集を中心に行い、最終年度となる平成22年度は成果報告を取りまとめる計画である。

## 2. 研究の進捗状況

平成20年度は、モスクワとサンクトペテルブルクの国立図書館で古地図の所在調査を行った。モスクワにロシア国立図書館地図室では、主に極東地域の都市図とシベリア全体の地図の所在調査を行い、必要なものは閲覧・撮影した。サンクトペテルブルクの国立図書館地図室でも主に極東の都市図とシベリア全体の地図の所在調査を行った。撮影は禁止されているので、必要なものは閲覧し、トレースした。

平成21年度は、ハバロフスク・ブラゴベシチェンスク・イルクーツクの学術図書館で古地図の所在調査を行った。ハバロフスクでは、極東の地図史に関する主要な参考文献を収集し、地図の所在調査も行った。ブラゴベシチェンスクでも同様の調査を行った。イルクーツクのイルクーツク国立大学学術図書館では、都市図および周辺地域を描いた地図を閲覧し、イルクーツクの都市形成や発展の基盤について確認することができた。また、イルクーツクにある帝立ロシア地理学協会

のシベリア支部となった現在の郷土博物館においても関連文献を収集した。

平成22年度は、再びモスクワの国立図書館で調査を行い、軍事史文書館にて参謀本部の地図調査も行った。モスクワの国立図書館地図部では、時間の関係で前回調査できなかったシベリアの主要都市の都市図の特徴を考えるうえでの比較素材として、カザンやタシケントなどイスラム文化をもつロシア・ソ連時代の都市の都市図などについても確認し、都市計画や都市構造の類似性や異質性についても検討を行った。また、最新のロシア地図史に関する学術図書や論文の検索を行い、必要なものは閲覧・複写した。

これらの過程で、各古地図研究に関わるロシア地図史の多くの参考文献を北海道大学附属図書館やスラブ研究センター図書室などにおいて収集し、主要な高額アトラス類は購入した。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

ロシア各地の図書館・文書館・博物館での史料調査は終了し、収集した古地図や文献などの翻訳およびデータ整理を行っている途中である。

## 4. 今後の研究の推進方策

最終年度は、成果の取りまとめを行う予定である。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

米家志乃布(2011):20 世紀前半のシベリア・極東における植民都市と地図作製、法政大学文学部紀要、第 62 号、査読無、57-71 頁.

〔学会発表〕(計 1 件)

米家志乃布(2010):20 世紀前半のシベリア・極東における植民都市と地図作製、日本地理学会秋季学術大会、2010 年 10 月 3 日、名古屋大学.